



# 一般社団法人益田サイバースマートシティ創造協議会

## 通信Vol.2

益田グローバルヘッドクォーター (Global Headquarters)

〒698-0024 島根県益田市駅前町17番1号 EAGA 産業支援センター内 2020/10/04

## 益田で取組を始めた経緯



益田サイバースマートシティ創造協議会(MCSCC)の代表理事(共同代表)に就任した豊崎禎久です。

益田市は、知れば知るほど興味深いまちです。四季折々の自然が豊かで、高津川は清流日本一。水害が多発し、少子高齢化が急ピッチに進み、人口は減少の一途。このままでは「消滅自治体」になりかねない、課題が多くて日本の地方都市の「縮図」のようなまちでもあります。

まだMCSCCが発足する前、IoTシンポジウムに参加したシマネ益田電子からのお声がけを受けて、2016年10月27日、シマネ益田電子の会議室に、同社エンジニアのほか、銀行や県庁・市役所の人たち約50名に集ってもらい、「課題解決型スマートシティ」のプランを提示しました。この中で、益田市の将来はこうなる。だからスマートシティ構築の必要がある。人口増は難しいが、関係交流人口は増やせる。北に石見銀山、南に津和野や萩。全国的に有名な観光地だ。益田市にも室町時代の文化史跡があるが、残念ながらまだブランド力が乏しく、観光客は少ない。しかし、テクノロジーのショーケースを作ることができれば、ビジネスや視察などで多くの人が集まる。私から、そう申し上げました。

最初は益田市の悩み事の調査。アンケートをしたところ、水害という悩みが抽出できました。街中に用水路が張り巡らされているため、水門を適切に調整しないと浸水や冠水が発生します。水害は毎年発生していました。AGDとオムロン、慶応義塾大学大学院と共同で開発したIoTプラットフォームが完成していたので、これを活用することとし、まず益田市内の用水路6カ所に水位計を設置。従来は市職員が現場で水位を確認し、水門を開閉して水流を調節していましたが、実証実験では水位計のデータがスマートフォンで確認できるため、現場に行かなくとも水位把握が可能となっています。職員の労力が軽減された上、設置した2017年以来、一度も水害が生じていないと聞いています。

益田は「明治維新の火ぶたを切った町」。他都市との連携も進めながら、益田が日本のデジタル革命の起点となるよう全力を尽くします。

## 豊崎 禎久

### 【新代表理事プロフィール】

アーキテクトランドデザイン株式会社ファウンダー／元慶應義塾大学大学院 特別招聘教授

MCSCCの共同代表に就任した豊崎禎久さんは、デジタル社会を如何に作り上げて行くべきかを私に提案し、支えてくれる「デジタル後援会長」。半導体とスマートシティの第一人者です。

人工知能(AI)やIoTを駆使しsociety5.0を進める中で必要となる社会システム構築では、世界的なアーキテクチャーであり、真のキーマンです。

如何なるシステムを作るかの枠組み作りにおいて、世界の実態と技術の進歩を複合的俯瞰的に捉えることが大切。スマートシティづくりではこういう思考ができる人材が重要な中、益田は豊崎さんが全力で支えていることが大きな優位性です。

私は自民党政調でスマートシティ、AI等を担当していました。激しい世界的競争、立ち向かう際にワクワクします。この分野は、自ら世界に先駆けるほどの情熱と元気と知恵と資金と協力が必要になります。現在副幹事長に転じ、私も先陣を切って立ち向かいます。ともに駆け抜けましょう。

自由民主党副幹事長 (前政務調査会内閣第二部会長)  
前経済産業副大臣／元環境副大臣／衆議院議員

## 関 芳弘

